

## 視察報告書:四国 瀬戸内海会派視察

所属会派	おかや未来研究室	氏名	中島 秀明
視察の名称	会派視察 瀬戸内海「しまなみ海道」サイクリング体験視察		
日程	令和6年11月11日(月) ~ 令和6年11月14日(木) ※しまなみ海道体験視察:令和6年11月11日(月)午後2時~5時		
視察要点目的等	諏訪湖サイクリングロードの全線開通によって今後期待される交流人口の増加に向けた取組みと、それらを岡谷市内に取り込んで観光を核とする地域の産業振興と地域の活性化への取組みに向けて、しまなみ海道のサイクリングを実際に体験することで、そのヒントを探すことを目的とする。		

### 【概要】

平成11年5月1日に開通した広島県尾道市と愛媛県今治市を10の橋で結ぶ総延長約70kmの海の道「瀬戸内しまなみ海道」は、多島美を誇る瀬戸内の歴史と文化にあふれる島々を吊り橋、斜張橋、アーチ橋といった個性豊かな10の橋で結び、サイクリングロードを併設した特色あるルートとなっている。この自然美溢れる景色が楽しめる全長約70kmのサイクリングロードは、「サイクリストの聖地」とも呼ばれてCNNの「世界の最も素晴らしい7大サイクリングコース」の1つに選ばれており、サイクリングロードへのアクセスのし易さや設備面においては日本一のサイクリングロードに相応しい充実した内容となっている。

### 【内容】

- 瀬戸内海の6つの島々を繋ぐ10の巨大な橋のサイクリングコースの完走自体を目的とした場合には、最短距離で約70kmであるが、途中の島々には見どころがたくさんあることから、それぞれの島の外周を楽しむなどしていると100kmを超えるコースになる。また、7つの橋の路面の高さが海拔約40mあり、橋を渡るたびに急勾配の登り降りを繰り返すことでアップダウンの激しいコースとなることからことサイクリストの多様なニーズにも対応できるコースとなっている。
- 尾道市から今治市の間「しまなみ海道」に沿ってレンタサイクルステーション(10箇所)が運営されている。各地区のレンタサイクルターミナルでは、乗捨てが自由で、また、今治市内の一部のホテル・旅館等でも乗り捨てが可能となっている。
- 各サイクルステーションには、トイレ、休憩所、観光案内所や観光スポット等が設けられていることからサイクリングそのものを楽しむ以外に瀬戸内の所々の自然景観が楽しめる仕組みになっており、サイクリングをツール(手段)として、瀬戸内自体を楽しむ観光戦略の元に県(広島県・愛媛県)を跨いだ広域連携で一体的に推進した事業となっている。



【しまなみ海道サイクリングコース】

### <サイクリングしまなみ2024>

- 国内47都道府県と海外27の国と地域から約3,500名のサイクリストを迎えて「サイクリングしまなみ2024」を開催。初回大会は2014年に開催されて国内外から約8000人のサイクリストが集まり、以降、4年に1度大会を行っていて、その間の偶数年(2024年)には規模を抑えた大会を開催して日本全国はもちろん世界中から大勢の観光客、サイクリストが訪れることで日本一のサイクリングロード・しまなみ海道のブランド構築に役立っている。

## ＜サイクリングロード体験＞

初心者コース(6→5)約11kmのサイクリングを体験

### ①「道の駅 多々羅しまなみ公園」

「サイクリストの聖地」記念碑のある道の駅・多々羅しまなみ公園(大三島ICを降り口)からサイクリング体験をスタート。

### ②多々羅大橋

国内最長1,480m、海面から48mの斜張橋。大三島側から高さ226mの大きな主塔の向こうに生口島・観音山(芸予諸島最高峰472m)がそびえたつ緑の山と白い塔の取り合わせが絶景な風光明媚な撮影スポット。

### ③生口島の海岸線

生口島は「国産レモン発祥の地」。多々羅大橋を降りて島の道路の山の斜面や沿道にレモン畑が広がっている。

### ④瀬戸田サンセットビーチ

生口島にある長さ800mのきれいな砂浜で海水浴、キャンプ、バーベキューやマリンスポーツの体験ができる。ここで終点。



【多々羅大橋サイクリングコース】



【道の駅 多々羅しまなみ公園】



【多々羅大橋の橋上】



【瀬戸田サンセットビーチ】

## 【視察の感想】

- ・「しまなみ海道サイクリングロード」は、世界7大サイクリングコースに選定されているだけあり、ハード面では抜群の内容であった。今回、サイクリングを体験したコースは距離的には全体の1/7程度であったが、自転車で通行するストレスを感じることなく、また、自転車のレンタル・返却等ができるレンタルステーションが各所に整備されており、また、スマホ等の利用でサイクリングによる瀬戸内の島巡りの場合にも対応できる仕組みづくりができています。
- ・本州と四国を結ぶ橋を架ける際に自動車専用道路とすることなくサイクリングを活用した観光ビジョンの基に、県を跨いだ広域で推進することで其々の地域資源をフルに活用する手法は見習うべきところが多いと感じた。
- ・今回のサイクリング体験は、僅か10km程であったが、再度訪れて、もっと時間を取って楽しみたいとなったサイクリングロードは今回が初めてであった。このサイクリングロードのビジョンとハードのマッチングが上手くできているからだと思うが、また、ソフト面においても、「サイクリングしまなみ2024」やSNS等を活用したプロモーションと体験談等によって多くの人がしまなみ海道に注目して興味を持てる仕組みづくりができていこともその一因であると思う。
- ・「しまなみ海道サイクリングロード」は完成から25年が経過しており、細かな部分は別としても総体的には大変に魅力あるコンテンツとなっている。諏訪湖サイクリングロードを含めて各地にサイクリングロードが整備されて、其々に地域資源を活用した形になっているが、他にはない地域の魅力を上手く取り込んでいくことの難しさを感じた。
- ・出合った人の半数位(もっと多いかも?)が、外国からの、所謂、インバンドであった。また、レモン果汁を提供している店では、現金が使えずにカード或いはスマホ決済であった。四国というイメージからは想像し難い部分であり、大変に驚いた。世界に向けた観光資源を活かしていくには、こういう部分の対応や整備も重要だと感じた。
- ・泊まったホテル(しまなみプライムホテル今治)でもサイクリストへの配慮がされており、サイクリストの宿泊客も多かったが、今治の街の活性化に向けた「しまなみ海道サイクリングロード」の活用には興味があるところである。
- ・「しまなみ海道サイクリングロード」には、多くの魅力的な場所や施設があり、また、是非訪れたい場所であった。

- ・25年の歴史の「しまなみ海道サイクリングロード」に比較して、「諏訪湖サイクリングロード」やそれに繋がる「日本アルプスサイクリングロード」は、生まれたたての赤ちゃんに等しい様な存在であり、ハード面の整備や地域資源を活用した魅力の構築についても参考にしていく内容が大変に多いことを実感した。諏訪湖サイクリングロードとその延長のサイクリングコースの開発と、それによる交流人口の増加と地域への取り込みには、こういった事例(しまなみ海道は、特にお薦め)の現地調査や体験とにより、先ずは感動を実感することが必要ではないかと思う。

## 【岡谷市への活用】

今後の岡谷市における活用に向けて、以下の様な組織体制を検討していくことが必要であると考え。

- ① 諏訪湖サイクリングロードを核として、諏訪湖及び湖周の市町の観光振興と地域活性化の取組みを主導的に行なう組織体制の構築(例えば、定住自立圏構想をベースとした観光地域づくり法人等)。
  - ・「諏訪湖サイクリングロード」をベースに諏訪地域の観光振興に向けて展開していく上で、少なくとも諏訪湖周の市町の広域連携が不可欠であり、広域連携による具体的な事業や取組みを一元的にマネージメントしていく仕組が必要であることは、今回の視察でも痛感した点である。
  - ・これまでの様にサイクリング道路の整備といったハード面に関する対応には、現行の協議会形態でも対応できるが、諏訪湖周の観光をコアとした産業振興や地域の活性化を主眼に他にはない魅力を付加して外部から人を呼び込み、地域に滞留させるには明確なビジョンとそれに沿ったハードとソフトの両面の整備を一体的に、且つ、機動的に取り組んでいくための民間視線と経営原理をベースとした組織体制が必要である。
  - ・諏訪湖周の市町が連携していくには、諏訪湖をコアとした観光産業の振興を目的とした定住自立圏構想を踏まえて、それを推進していく民間主導の観光地域づくり法人(DMO)等が適していると考え。
- ② 岡谷市内への交流人口の呼び込みによる観光産業の育成と地域協働を推進する組織体制の拡充
  - ・「諏訪湖サイクリングロード」等による諏訪地域への交流人口の流れを岡谷市内に呼び込んで、市内での滞留時間を増加させることで市内の観光産業の育成と共に、地域の各種団体と連携して地域の活性化の推進を目的とする組織が不可欠となっている。
  - ・市内を巡るサイクリングロードの開発、広域のサイクリングロードとの接続や連携、サイクリングツーリズムの企画・運営や自転車活用の推進の補助金への対応を含めた各種の取組みを主導的に行なうことで地域を巻き込んだサイクリングの推進を目的とした民間ベースの事業体(まちづくり株式会社等)によって民間の活力を導入していくことが望ましい。